b-4) オシドリ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6]に準絶滅危惧種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、九州、沖縄で繁殖し、冬は本州以南ですごす[12]。佐賀県内では佐賀市城内の堀、北山ダム、早津江川河口、川副町平和搦、東与賀干拓、有明干拓、福富干拓、鹿島市新籠、塩田川河口、松浦川河口、有明海、玄界灘、唐津市鏡山、虹の松原[14]、県内各地のダム貯水池、山間部の溜池、河川[6]における記録がある。佐賀県では冬鳥[13]で、少数は繁殖する[6]。

低地から亜高山帯にかけて広く見られる[12]。繁殖期には大木の多い広葉樹林内の河川、湖沼にすむ[12]。とくにミズナラの多いブナ林、シイ、カシ林等を好む[12]。冬は山間の河川、ダム貯水池、湖沼、樹林に囲まれた池、溜池等で見られる[12]。雑食性だが主として植物食である[12]。草の種子、樹木の果実、水生昆虫等を食べる[12]。特にシイ、カシ、ナラ類のどんぐりを好む[12]。繁殖期は 4 月～7 月[12]である。巣は大木の樹洞内につくったり、地上につくったりする[12]。樹洞内の場合には巣材はないが、地上の場合は窪みに草や木の葉を敷いて皿形に作る[12]。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(4)に示す。

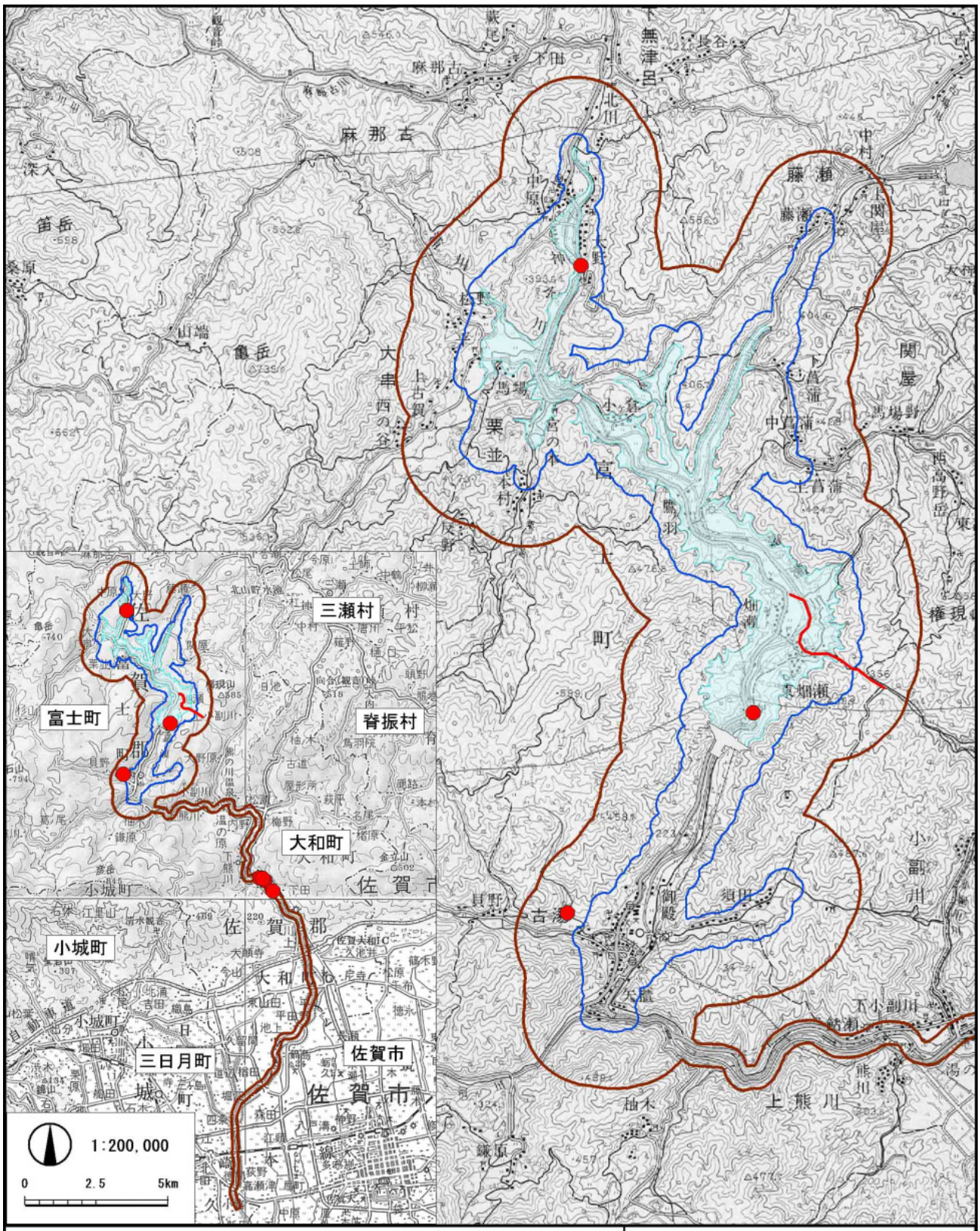
本種は、平成 9 年度、13 年度及び 14 年度の調査において、大野地区の大野集落周辺 1 地点、古湯地区の淀姫神社北の谷沿い 1 地点、嘉瀬川の川上第五ダム下流 4 地点、八反原集落周辺 2 地点、合計 8 地点で生息が確認された。また、平成 10 年度の環境巡視において、嘉瀬川の川上川第三発電所周辺 1 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年

度に東畑瀬集落の林道沿いの経路上において確認された記録がある。

八反原では本種の生息環境である淵及びその周辺の広葉樹林が分布しており、初夏につがいが、冬季には 80 羽程度越冬する個体が確認されており、繁殖から越冬まで、年間をとおして利用されていると考えられる。

なお、平成 14 年度に実施した北山ダムの調査において、本種が冬季にダム貯水池を利用していることが確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に河川の淵とそれを囲む広葉樹林に生息すると考えられる。



凡　例

- ：ダム堤体
- ：副ダム
- ：貯水予定区域
- ：対象事業実施区域
- ：調査地域
- ：確認地点

＊：この経路内で確認した記録がある。

1:50,000

0　1　2km

図4.1.5-4(4)
オシドリ確認地点

b-5) ミサゴ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に準絶滅危惧、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」[6)]に絶滅危惧 I 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、日本では北海道から沖縄で少数が繁殖する [12)]。佐賀県内では唐津市松浦川河口 [14)]における記録がある。非繁殖期は各地で見られ、特に伊万里湾(伊万里川、有田川河口)では生息密度が高い [6)]。佐賀県では留鳥 [13)]とされる。

海岸、大きな川、湖等で採食し、人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に巣を作る [12)]。ボラ、スズキ、トビウオ、イワシ等の魚類だけを食べる(その地方で捕れる魚であれば何でも食べる)[12)]。繁殖期は 4 月～7 月 [12)]である。岩棚等に流木や枯れ枝を積んで、かなり大きな皿形の巣を雌雄共同で作る [12)]。同じつがいが何年も同じ巣を修復しながら利用することが多い [12)]。

iii) 調査結果

本種は、平成 9 年度、13 年度及び 14 年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域を含む広い範囲で合計 22 例が確認された。確認された行動は、飛翔、採餌、探餌等であるが、繁殖に係る行動は確認されなかった。また、22 例の確認例のうち、19 例は北山ダム周辺での確認であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、大きな河川や湖沼、海域で魚を捕獲し餌とする猛禽であり、当該地域においては、北山ダムを採餌場に利用していると考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

b-6) ハチクマ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に準絶滅危惧、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」[6)]に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、夏鳥として 5 月頃渡来し、本州、佐渡島、北海道で繁殖[12)]するとされている。佐賀県内では佐賀平野、唐津市周辺、脊振山、多良岳、石谷山、黒髪山、八幡岳、唐津市鏡山、虹の松原[14)]、黒髪山系(1990 年以降、5 月～8 月に毎年渡来)[6)]における記録がある。佐賀県では旅鳥[13)]とされている。ごく少数は九州でも繁殖する[6)]との知見もある。

生息地は標高 1,500m 以下の丘陵地や低山の山林[12)]とされる。ハチの幼虫や蛹を好んで食べ、クロスズメバチ等のジバチ類を特に好む[12)]。繁殖期は 5 月下旬～9 月[12)]である。低山帯の大木の枝上に、他の猛禽類の古巣を利用して皿形の巣を作る[12)]。

iii) 調査結果

本種は、平成 9 年度及び 14 年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域で合計 150 例が確認された。確認例のうち 147 例は、春季及び秋季の渡りの時期に上空を通過する個体であり、採餌及び繁殖に係る行動は確認されなかった。

生態情報及び確認状況から、本種は、ごく少数が九州で繁殖するとされるが、対象事業実施区域及びその周辺の区域における繁殖、採餌等に係る行動は確認されておらず、確認時期も渡りの時期が中心であるため、確認された個体は渡りの途中のものと考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

b-7) オオタカ

i) 重要性

本種は、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種である。また、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は日本では四国の一部及び本州、北海道の広い範囲で繁殖する[12)]。佐賀県内では、石谷山、脊振山、杵島山、黒髪山、八幡岳、作礼山、多良岳、経ヶ岳、浮岳の山地、佐賀平野、唐津市、伊万里市の平野部、嬉野町大野原高原[14)]、有明海沿岸、巨勢川調整池[6)]において記録があり、佐賀県では冬鳥[13)]とされている。

生息地は平地から亜高山帯(秋、冬は低山帯)の林、丘陵地のアカマツ林やコナラとアカマツの混交林[12)]とされる。餌は主にツグミ級の小鳥で、ハト、カモ、シギ、キジ等の中、大型の鳥やネズミ、ウサギ等も餌にする[12)]。産卵期は 4 月あるいは 5 月～6 月[12)]である。アカマツの枝等を積み重ねて厚みのある皿形の巣を作る[12)]。

iii) 調査結果

本種は、平成 13 年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域で合計 14 例が確認された。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 7 年度の環境巡視において、当該地域内で 1 例が確認された記録がある。また、平成 14 年度の 4 月以降に実施した調査では、本種の生息は確認されなかった。確認された行動はほとんどが越冬期における飛翔及び止まりであり、対象事業実施区域及びその周辺の区域では採餌及び繁殖に係る行動は確認され

なかった。

生態情報及び確認状況から、確認された個体は冬季に流れてきた個体であり、当該地域で繁殖は行われていないと考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

b-8) ツミ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、日本全国各地で繁殖し、暖地では留鳥として年中生息[12)]する。積雪の多い寒地のものは暖地に移動して越冬する[12)]。佐賀県内では、佐賀平野、唐津市周辺、脊振山、多良岳、石谷山、黒髪山、八幡岳[14)]における記録があり、佐賀県では旅鳥[13)]とされている。

多くは平地から亜高山帯の林に生息する[12)]。水田地帯や牧草地、住宅街及びその周辺等、比較的開けた環境でも繁殖記録が得られている[12)]。主にスズメ、ツバメ、セキレイ類、エナガ、ムクドリ等の小鳥を捕食するが、小型のネズミや昆虫も食べる[12)]。産卵期は 4 月～5 月[12)]である。針葉樹の枝に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作るが、営巣木にはアカマツが特に多い[12)]。

iii) 調査結果

本種は、平成 14 年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域で 1 例が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 13 年度の環境巡視において、当該地域内で 1 例が確認された記録がある。確認された行動は飛翔であり、採餌及び繁殖に係る行動は確認されなかった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の上空を通過する個体が偶然確認されたと考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

b-9) ハイタカ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に準絶滅危惧として掲載されている。

ii) 生態

本種は、日本では本州以北で繁殖する留鳥[12)]である。佐賀県内では、鳥栖市石谷山、唐津市松浦川、虹の松原、松浦川河口、脊振山、杵島山、黒髪山、八幡岳、作礼山、多良岳、経ヶ岳、浮岳の山地、佐賀平野、唐津市、伊万里市の平野部、嬉野町大野原高原[14)]における記録があり、佐賀県では冬鳥[13)]とされている。

平地から亜高山帯の林に生息[12)]し、主にツグミくらいまでの小鳥を狩るが、ネズミやリス、ヒミズ等を捕えることもある[12)]。産卵期は 5 月[12)]で、カラマツの枝を主材に、皿形の巣を雌雄共同で作る[12)]。

iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度、9 年度、13 年度及び 14 年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域で合計 39 例が確認された。また、平成 7 年度及び 11 年度の環境巡視において、3 例が確認された記録がある。確認例のうち 35 例は、1 月～3 月の越冬期における採餌行動、飛翔等であり、繁殖に係る行動は確認されなかった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において越冬期に樹林に生息し、林内や林縁部を採餌場として利用していると考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

b-10) サシバ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、夏鳥として 3 月～4 月ごろ渡来し、九州から青森県にかけて繁殖する [12)]。佐賀県内では、鳥栖市石谷山、唐津市松浦川、虹の松原、松浦川河口、鏡山 [14)]、黒髪山系、多良山系、伊万里市、厳木町、相知町 [6)]における記録がある。秋の渡りの時期は、ほぼ全県的に見られる [6)]。佐賀県では夏鳥とされている [13)]。

低山から丘陵の森林に生息し、周辺の水田等の開けた環境で狩りをする [12)]。ヘビを好んで食べる他、ネズミ、モグラ、小鳥、カエルや、バッタ等の昆虫もよく食べる [12)]。秋の渡りの時期には昆虫が主食となる [12)]。繁殖期は 4 月～7 月、年に 1 回 [12)]である。森林や丘陵地の奥まった谷のマツやスギの枝上に、枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作る [12)]。

iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度、9 年度、13 年度、14 年度及び 15 年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域で 1324 例が確認された。また、平成 12 年度及び 15 年度の環境巡視において、4 例が確認された記録がある。出現状況、個体識別、ディスプレイ等の観察結果から、5 つがいとその幼鳥及びつがい形成していない個体が確認された。

営巣が確認された地点は標高 300m～500m に位置しており、営巣木は 4 カ所がスギ、1 カ所がアカマツであった。このほか、採餌場は主に営巣地周辺の水田や休耕地であり、カエル類、トカゲ類、昆虫類等を捕食するのが確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の谷戸部を繁殖場に利用して

いると考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

b-11) チュウヒ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道と本州中部以北で少数が繁殖する他、多くは冬鳥として本州以南に渡来する[12)]。佐賀県内では、石谷山、脊振山、杵島山、黒髪山、八幡岳、作礼山、多良岳、経ヶ岳、浮岳の山地、佐賀平野、唐津市、伊万里市の平野部、嬉野町大野原高原[14)]、有明海沿岸及び伊万里湾岸の干拓地[6)]における記録がある。佐賀県では冬鳥[13)]とされている。

平地の広いヨシ原や草原に生息[12)]する。餌はネズミ、小鳥類、カエル等の小動物[12)]である。基本的には捕えられるものは何でも餌にする[12)]。繁殖期は 4 月～7 月[12)]である。地上に枯れたヨシやススキ等の茎を粗雑に積み重ねて基礎部分を作り、その上部に軟らかなイネ科の枯れ葉を皿形に浅く敷きつめて産座にする[12)]。

iii) 調査結果

本種は、平成 13 年度の調査において、対象事業実施区域及びその周辺の区域で 1 例が確認された。確認例は餌を探しながら飛翔する個体であり、繁殖に係る行動は確認されなかった。また、本種の生息環境と考えられる平地の広いヨシ原や草原は当該地域内に存在しない。

生態情報及び確認状況から、本種の生息環境は当該地域に存在せず、確認例数も少ないことから偶然確認されたと考えられ、本種は当該地域を主な生息地

としていないと考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

b-12) ハヤブサ

i) 重要性

本種は、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種である。また、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に絶滅危惧 I 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道から九州北西部の島嶼に至るまで広く分布する留鳥[12)]である。佐賀県内では、玄海の離島でごく少数が繁殖する。冬期には県内各地で見られる[6)]。佐賀県では冬鳥[13)]とされている。

海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野等に生息[12)]する。餌はほとんどがヒヨドリ級の中型の小鳥で、稀に地上でネズミやウサギを捕える[12)]。産卵期は 3 月～4 月[12)]である。海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚の窪みに、脚で砂泥や草の根等を掻き出して産座を作り、直接産卵する[12)]。また、繁殖に適した岩棚がない場合には、岩礁の頂上や岬先端部の草地や砂地の上にも産卵する場合がある[12)]。

iii) 調査結果

本種は、平成 5 年度の調査において、対象事業実施区域の下流の河川上空で 1 例が確認された。確認されている行動は採餌であり、繁殖に係る行動は確認されなかった。また、生態情報から本種の主な生息環境と考えられる海岸や広い草原、原野等の環境は当該地域内に存在しない。

生態情報及び確認状況から、本種の生息環境は当該地域に存在せず、確認例

数も少ないことから偶然確認されたと考えられ、本種は当該地域を主な生息地としていないと考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

b-13) アカヤマドリ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、九州北部及び中部に分布する留鳥[15)]である。佐賀県内では、鳥栖市石谷山[14)]における記録がある。佐賀県では留鳥[13)]とされている。

平地から低山のよく茂った林にすむ[15)]。特に渓流の近くの下生えのある林を好む[15)]。地上を歩いて草の種子や果実を拾い、昆虫等もあさる[15)]。時には高い木の枝やつるに止まって木の実を食べることもある[15)]。産卵期は 4 月～6 月[12)]である。巣は木の根元、石の陰、草叢等にあり、地上に窪みを作り、木の葉や枯草を敷く[15)]。

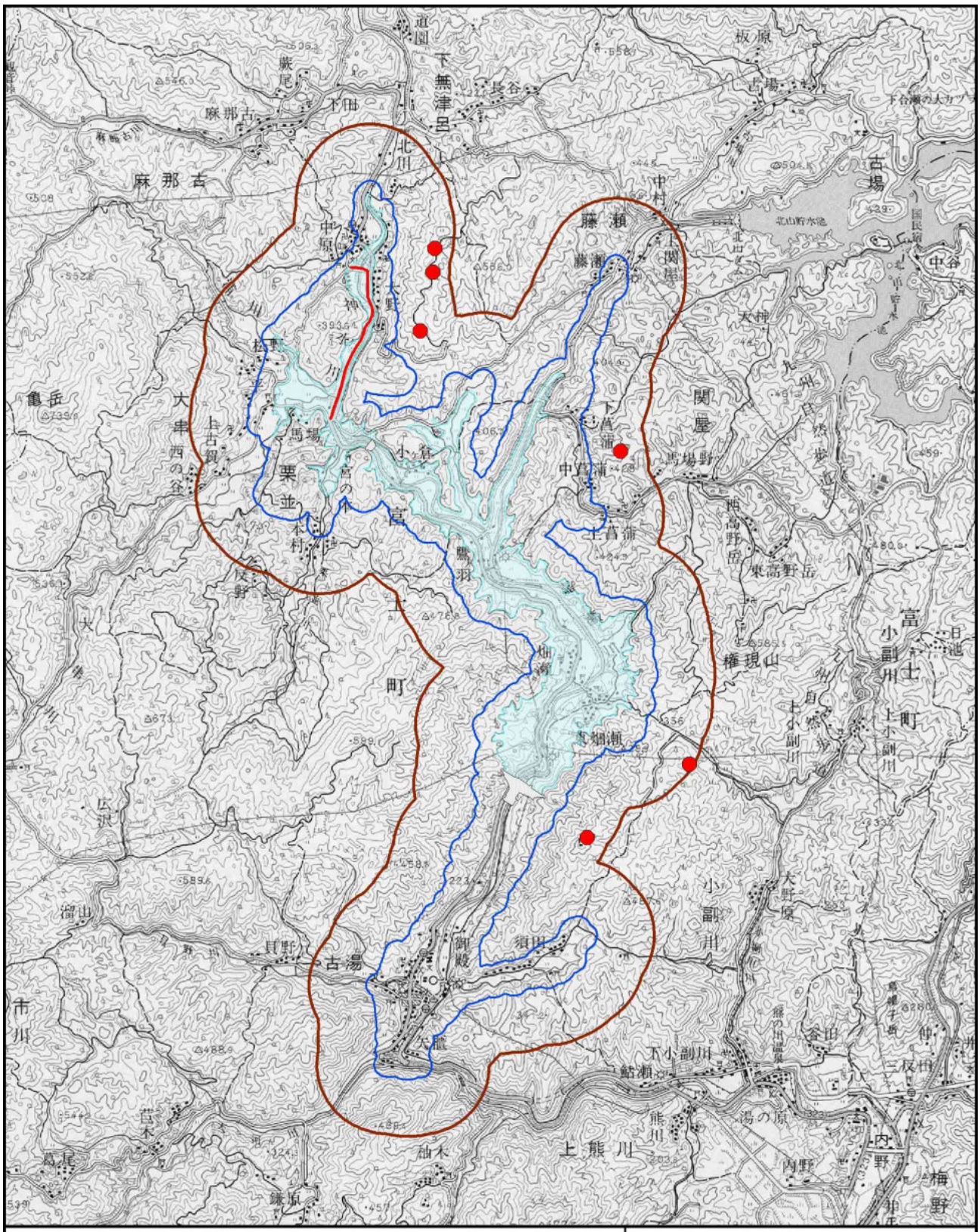
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(5)に示す。

本種は、平成 14 年度の調査において、下無津呂地区の北川集落南の山間部 1 地点、大野地区の大野集落東の山間部 2 地点、小副川地区の上小副川集落西の山間部 1 地点、御殿集落北の東斜面 1 地点、合計 5 地点で生息が確認された。また、平成 10 年度の環境巡視において、関屋地区の中菖蒲集落北東の谷戸 1 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 5 年度に神水川沿いの経路上において確認された記録がある。

確認地点の環境は、スギ・ヒノキ植林であり、周辺部には小パッチ状の広葉樹林が見られた。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に樹林に生息すると考えられる。



凡　例

- ：ダム堤体
- ：副ダム
- ：貯水予定区域
- ：対象事業実施区域
- ：調査地域
- ：確認地点

＊：この経路内で確認した記録がある。

1:50,000

0　1　2km

図4.1.5-4(5)
アカヤマドリ確認地点

b-14) クイナ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州以南では留鳥または冬鳥と言われるが、半夜行性で、しかも湿地の草叢に生息するため、まだ十分に生息分布は分かっていない[12)]。佐賀県内では、伊万里市[16)]における記録がある。佐賀県では冬鳥[13)]とされている。

平地から低山の湖沼、河川、水田等の水辺の草叢や、ヨシやマコモが密生する湿地に生息する[12)]。秋、冬にはヨシ原や水辺の草叢に生息する[12)]。湿地で昆虫、クモ、カエル、エビ、小魚等をついばむ[12)]。また、タデ科、イネ科、キク科等の草の種子を食べる[12)]。繁殖期は 5 月～8 月、年に 1 回～2 回繁殖する[12)]。湖沼、河川の湿地の草叢に、枯れたアシや草で皿形の巣を雌雄共同で作る[12)]。

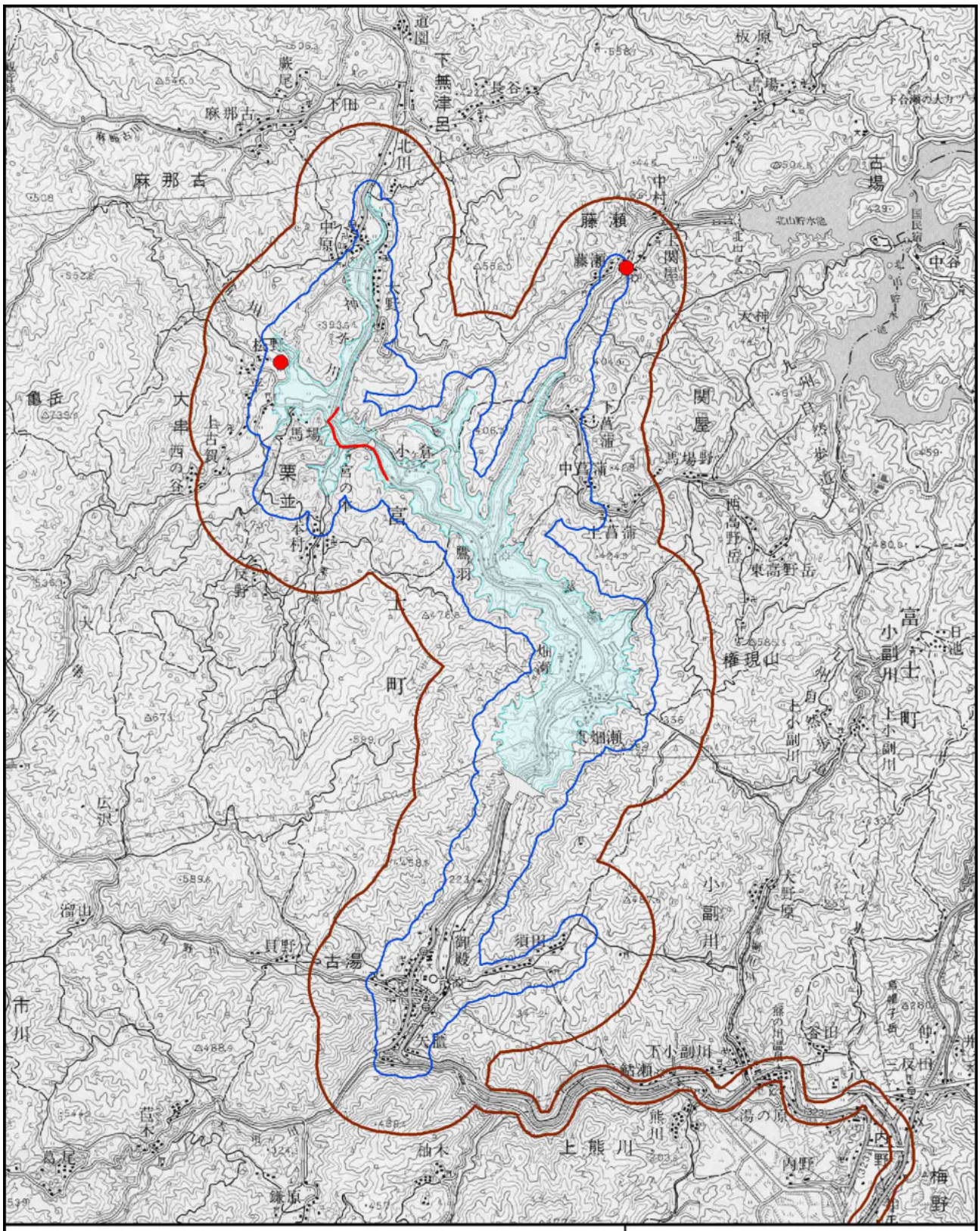
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(6)に示す。

本種は、鳥類相を対象とした調査において、平成 6 年度の春季に嘉瀬川の新小関橋上流で 1 個体が確認された。また、平成 15 年度の環境巡視において、松野集落東の耕作地で 1 個体が確認された記録がある。

このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度の秋季に神水川橋付近の経路上において 1 個体が確認された記録がある。

専門家への聴取により、本種は、主に下流部に生息する種であり、当該地域は主な生息地ではないとの情報を得た。



凡　例

- ：ダム堤体
- ：副ダム
- ：貯水予定区域
- ：対象事業実施区域
- ：調査地域
- ：確認地点

＊：この経路内で確認した記録がある。

1:50,000

0　1　2km

図4.1.5-4(6)
クイナ確認地点

b-15) オオジシギ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に準絶滅危惧として掲載されている。

ii) 生態

本種は、夏鳥として渡来し、本州中部以北で繁殖する[15)]。記録のある地域は北海道、本州、佐渡、四国、九州、伊豆諸島、大東群島[15)]である。佐賀県内では、有明海、玄界灘[14)]における記録がある。佐賀県では旅鳥[13)]とされている。

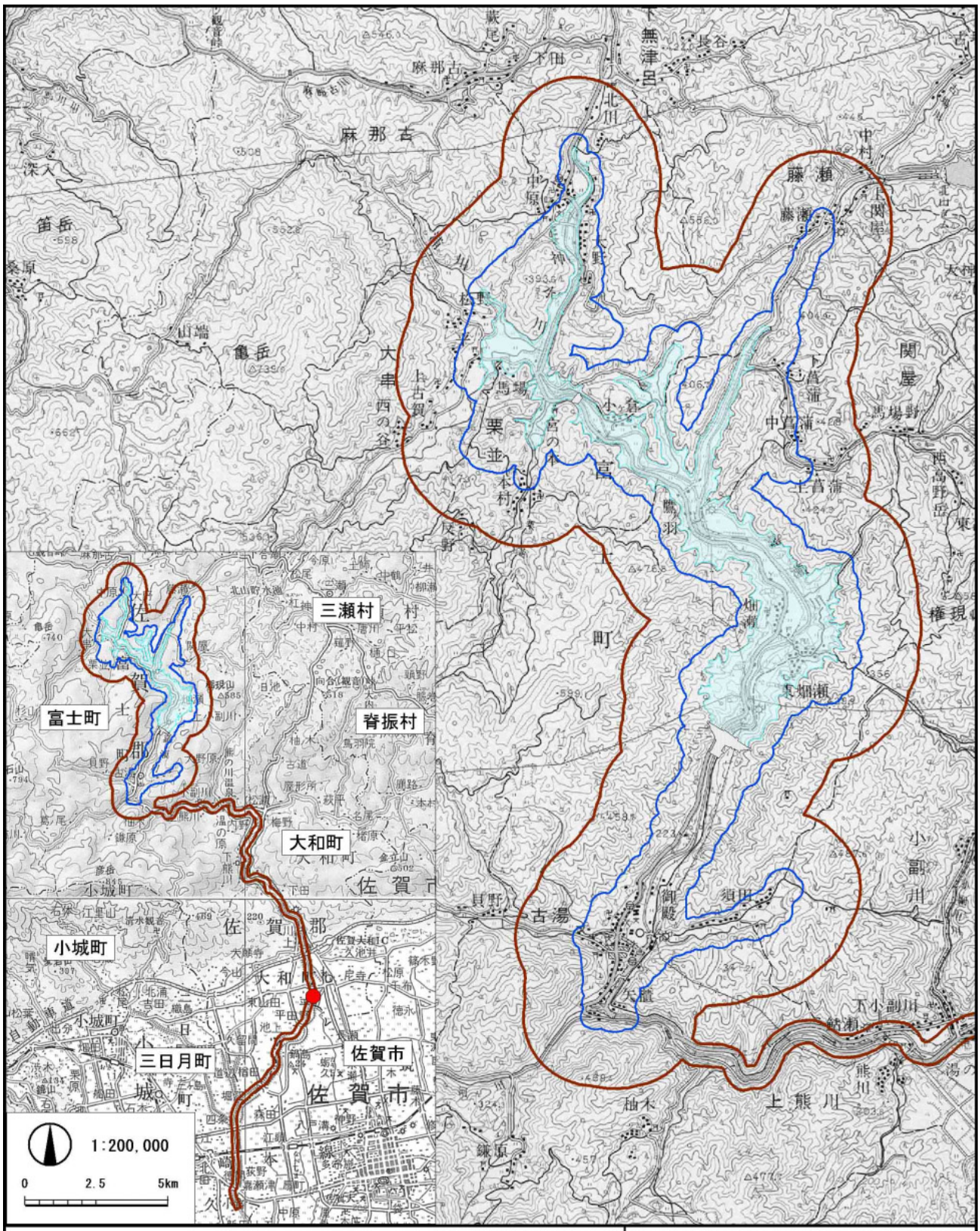
繁殖期には本州中部の山地の草原、東北地方や北海道の平地の草原[15)]にすむ。渡りの時には、各地の水田、はす田、湿地等[15)]や池、河川の周辺の砂泥地[12)]で見られる。河川や湖沼縁の、水につかるか湿った泥地の地上で採食する[12)]。土の中に垂直に長い嘴をさしこんで昆虫やミミズをあさる[15)]。産卵期は 5 月上旬～6 月上旬[15)]である。草原の地上に皿形の巣を作る[15)]。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(7)に示す。

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、鳥類相を対象とした調査において、平成 6 年度の春季に嘉瀬川の名護屋橋付近の河川敷及び果樹園で 2 個体確認された記録がある。

本種は、佐賀県では旅鳥とされており、また、渡りの時期である春季に確認されていることから、本種は、渡りの途中に偶然確認されたと考えられ、当該地域を主な生息地としていないと考えられる。



凡　例

- ：ダム堤体
- ：副ダム
- ：貯水予定区域
- ：対象事業実施区域
- ：調査地域
- ：確認地点

1:50,000

0　1　2km

図4.1.5-4(7)
オオジシギ確認地点